

# ノムラ THE ASIA Aコース (米ドル売り円買い) / Bコース (為替ヘッジなし)

## 償還運用報告書(全体版)

第10期 (償還日2019年12月19日)

作成対象期間 (2019年10月29日～2019年12月19日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、約款の規定にもとづき償還決算を行い、償還価額が決定いたしました。

ここに設定日から償還までの運用経過をご報告いたしますとともに、ご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

	Aコース	Bコース
商品分類	追加型投信/海外/株式	
信託期間	2019年12月19日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2015年6月29日)	
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA/クラスB受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、アジア諸国の株式 (DR (預託証券)、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。) を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。各受益証券への投資比率は、通常の状況においては、ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA/クラスB受益証券への投資を中心としますが、特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。	
	投資する外国投資信託において、実質的な通貨配分にかかわらず、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同程度度の米ドル売り円買いの為替取引を行います。したがって、保有する実質的な外貨建て資産について対円で為替ヘッジを行うことを目的としていません。	投資する外国投資信託において、組入外貨建て資産について原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資対象	ノムラ THE ASIA Aコース/Bコース	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA/クラスB受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA/クラスB	アジア諸国・地域の企業の株式およびアジアにおいて主要な事業活動に従事しているアジア域外の企業の株式を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	ノムラ THE ASIA Aコース/Bコース	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。外貨建て資産への直接投資は行いません。
	野村マネー マザーファンド	株式への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等から、原則として基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

## 野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## &lt;Aコース&gt;

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	標準		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	達 配				
	円 銭		円	%	%	%	百万円
6期(2018年4月27日)	10,053		10	0.0	0.0	99.0	143
7期(2018年10月29日)	7,989		0	△20.5	0.1	98.9	101
8期(2019年5月7日)	8,516		0	6.6	0.1	98.8	88
9期(2019年10月28日)	7,823		0	△8.1	0.1	98.8	53
(償還時)	(償還価額)						
10期(2019年12月19日)	7,912.60		—	1.1	—	—	41

\*基準価額の騰落率は分配金込み。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\*当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	標準		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率			
(期首)	円 銭		%	%	%	%
2019年10月28日	7,823		—	0.1	—	98.8
10月末	7,839		0.2	0.1	—	98.8
11月末	7,822		△0.0	0.1	—	98.8
(償還時)	(償還価額)					
2019年12月19日	7,912.60		1.1	—	—	—

\*騰落率は期首比です。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## &lt;Bコース&gt;

## ○最近5期の運用実績

決算期	基 準 価 額 (分配落)	準 価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落 率				
	円 銭		円	%	%	%	%	百万円
6期(2018年4月27日)	9,408		0	△ 2.6	0.0	—	98.7	1,560
7期(2018年10月29日)	7,760		0	△17.5	0.1	—	98.9	965
8期(2019年5月7日)	8,373		0	7.9	0.1	—	98.7	972
9期(2019年10月28日)	7,598		0	△ 9.3	0.1	—	98.8	511
(償還時)	(償還価額)							
10期(2019年12月19日)	7,693.56		—	1.3	—	—	—	449

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\*当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	準 価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率			
(期 首)	円 銭		%	%	%	%	%
2019年10月28日	7,598		—	0.1	—	—	98.8
10月末	7,631		0.4	0.1	—	—	98.2
11月末	7,666		0.9	0.1	—	—	98.8
(償還時)	(償還価額)						
2019年12月19日	7,693.56		1.3	—	—	—	—

\*騰落率は期首比です。

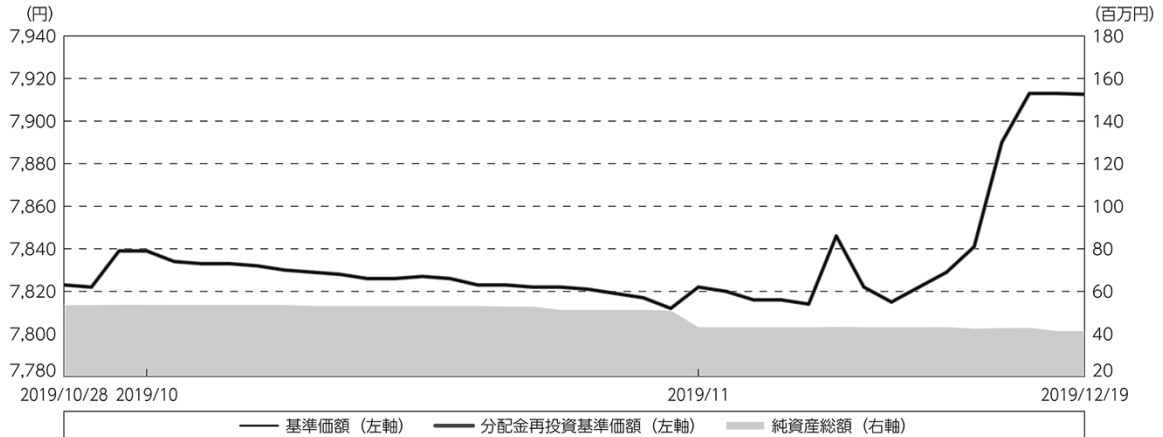
\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## <Aコース>

### ◎運用経過

#### ○期中の基準価額等の推移



期 首： 7,823円

期末(償還日)：7,912円60銭(既払分配金(税込み)：-円)

騰 落 率： 1.1%(分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2019年10月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

#### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の7,823円から償還時には7,912.60円となりました。

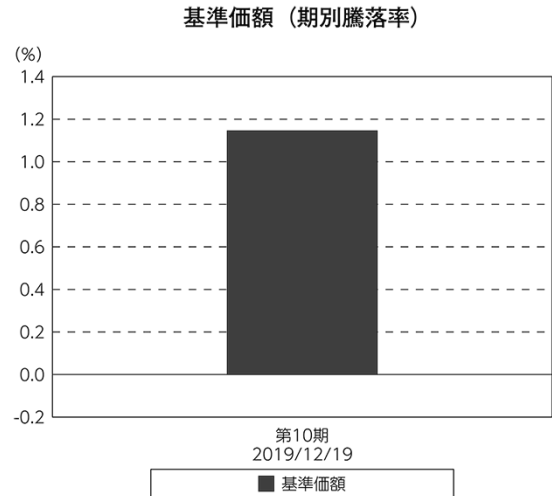
- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)
- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのインカムゲイン
- ・ 円/米ドル為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)またはプレミアム(金利差相当分の収益)
- ・ 米ドル/投資先通貨の為替変動

## <Aコース>

### ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



### ◎分配金

償還のため分配金をお支払いしていません。

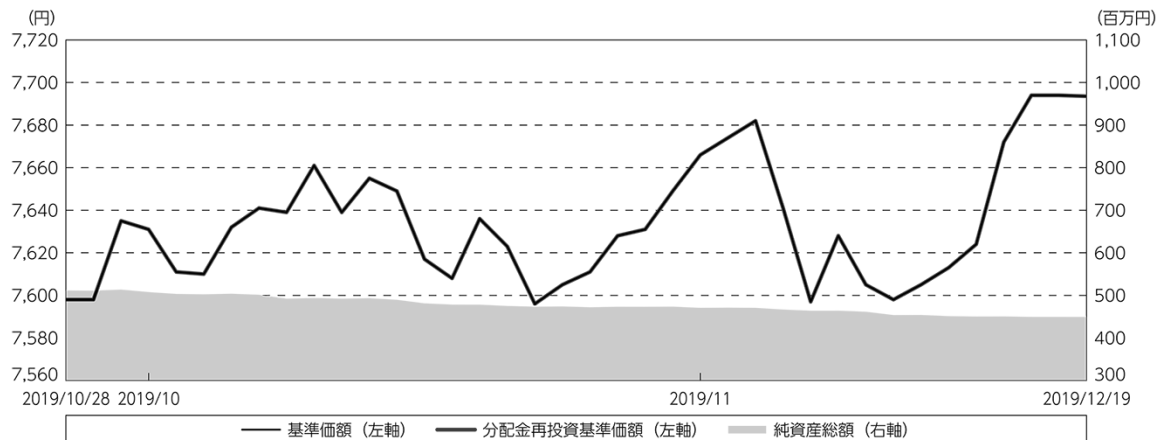
※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

## <Bコース>

### ◎運用経過

#### ○期中の基準価額等の推移



期 首： 7,598円

期末(償還日)：7,693円56銭(既払分配金(税込み)：-円)

騰 落 率： 1.3%(分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2019年10月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

#### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の7,598円から償還時には7,693.56円となりました。

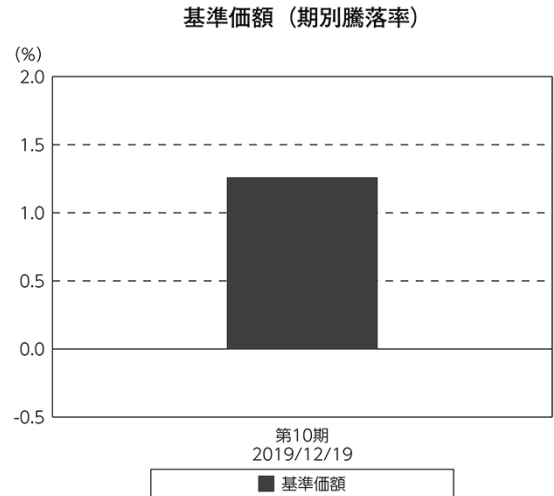
- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)
- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのインカムゲイン
- ・ 円/投資先通貨の為替変動

## <Bコース>

### ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



### ◎分配金

償還のため分配金をお支払いしていません。

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

## <Aコース/Bコース>

### ○投資環境

アジア（除く日本）市場は、10月の米雇用統計において非農業部門雇用者数が市場予想を上回る増加となったことや、米中貿易協議の「第一段階」合意への期待が高まったことなどから、11月上旬、堅調に推移しました。その後は、米国議会で「香港人権・民主主義法案」が可決されたことを受け、米中関係悪化への懸念などから軟調に推移する場面がありましたが、トランプ米大統領が中国との第一段階の貿易合意を承認し、中国による米国農産物買い入れを条件に、米国による12月15日予定の関税引き上げは見送りとなったことなどを背景に上昇し、当期間では値上がりとなりました。

### ○当ファンドのポートフォリオ

#### [ノムラ THE ASIA Aコース]

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券への投資比率は、11月末までは概ね高位を維持しました。12月以降は、償還対応で[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券の売却を進めました。また、[野村マネー マザーファンド] 受益証券も12月に全売却しました。

#### [ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA]

主要投資対象である[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA]のポートフォリオは、償還対応で、10月末までに保有有価証券を全売却しました。組入外貨建資産については、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いました。

#### [ノムラ THE ASIA Bコース]

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] 受益証券への投資比率は、11月末までは概ね高位を維持しました。12月以降は、償還対応で[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] 受益証券の売却を進めました。また、[野村マネー マザーファンド] 受益証券も12月に全売却しました。



**<Aコース/Bコース>****[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB]**

主要投資対象である[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB]のポートフォリオは、償還対応で、10月末までに保有有価証券を全売却しました。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんでした。

**[野村マネー マザーファンド]**

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行い、あわせてコール・ローン等で運用を行うことで流動性の確保を図りました。

## <Aコース>

### ◎設定来の運用経過

<設定来の基準価額の推移>



### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、設定時の10,000円が償還時7,912.60円となりました。設定来お支払いした分配金は1万口当たり20円となりました。

#### 第1期-第2期（2015年6月29日～2016年4月27日）

- ・ 中国人民銀行（中央銀行）が人民元の切り下げに踏み切ったことや、原油価格など商品価格が下落したことなどから、中国を中心に世界経済の先行き不透明感が高まったことなどを背景に、アジア（除く日本）株式は下落。

#### 第3期-第5期（2016年4月28日～2017年10月27日）

- ・ 世界経済の先行き不透明感を背景に、日銀やECB（欧州中央銀行）が緩和的な金融政策を維持するとの期待が高まったことや、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げが緩やかなものになるとの見方が強まったことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

#### 第6期-第7期（2017年10月28日～2018年10月29日）

- ・ FRBによる利上げの加速や、ECBによる債券購入の終了が意識されたことに加え、米中が追加関税を発表し貿易戦争への警戒感が高まったことなどから、アジア（除く日本）株式は下落。

<Aコース>

**第8期（2018年10月30日～2019年5月7日）**

- ・FRBによる利上げ観測が後退したことや、中国政府が財政支出拡大と減税を発表したことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

**第9期（2019年5月8日～2019年10月28日）**

- ・米中通商協議の先行き不透明感や、協議の長期化観測の高まりなどを背景に、アジア（除く日本）株式は下落。

**第10期（2019年10月29日～2019年12月19日）**

- ・トランプ米大統領が米中貿易協議の「第一段階」合意を承認し、中国による米国農産物買入れを条件に、米国による12月15日予定の関税引き上げは見送りとなったことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

## &lt;Bコース&gt;

## ◎設定来の運用経過

&lt;設定来の基準価額の推移&gt;



## ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、設定時の10,000円が償還時7,693.56円となりました。設定来お支払いした分配金はございませんでした。

## 第1期-第2期（2015年6月29日～2016年4月27日）

- ・ 中国人民銀行（中央銀行）が人民元の切り下げに踏み切ったことや、原油価格など商品価格が下落したことなどから、中国を中心に世界経済の先行き不透明感が高まったことなどを背景に、アジア（除く日本）株式は下落。

## 第3期-第5期（2016年4月28日～2017年10月27日）

- ・ 世界経済の先行き不透明感を背景に、日銀やECB（欧州中央銀行）が緩和的な金融政策を維持するとの期待が高まったことや、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げが緩やかなものになるとの見方が強まったことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

## 第6期-第7期（2017年10月28日～2018年10月29日）

- ・ FRBによる利上げの加速や、ECBによる債券購入の終了が意識されたことに加え、米中が追加関税を発表し貿易戦争への警戒感が高まったことなどから、アジア（除く日本）株式は下落。

<Bコース>

**第8期（2018年10月30日～2019年5月7日）**

- ・FRBによる利上げ観測が後退したことや、中国政府が財政支出拡大と減税を発表したことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

**第9期（2019年5月8日～2019年10月28日）**

- ・米中通商協議の先行き不透明感や、協議の長期化観測の高まりなどを背景に、アジア（除く日本）株式は下落。

**第10期（2019年10月29日～2019年12月19日）**

- ・トランプ米大統領が米中貿易協議の「第一段階」合意を承認し、中国による米国農産物買入れを条件に、米国による12月15日予定の関税引き上げは見送りとなったことなどから、アジア（除く日本）株式は上昇。

## ＜Aコース＞

## ○ 1万口当たりの費用明細

(2019年10月29日～2019年12月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 12	% 0.156	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 3 )	(0.042)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	( 9 )	(0.109)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 0 )	(0.005)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.000	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	12	0.156	
期中の平均基準価額は、7,830円です。			

\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

\* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

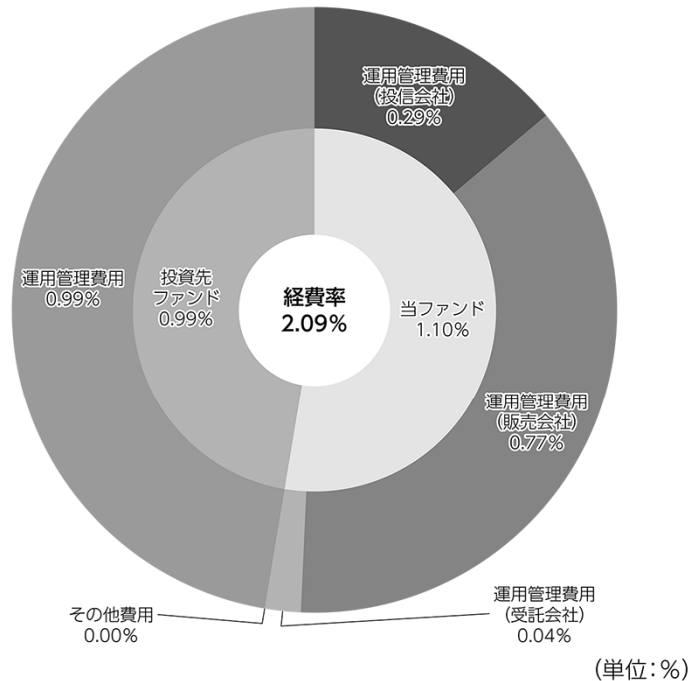
\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## &lt;Aコース&gt;

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.09%です。



経費率(①+②)	2.09
①当ファンドの費用の比率	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.99

(注) 当ファンドの費用は1万円当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## &lt;Aコース&gt;

## ○売買及び取引の状況

(2019年10月29日～2019年12月19日)

## 投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジアン・エクイティークラスA	口 -	千円 -	口 6,477	千円 53,284

\*金額は受け渡し代金。

\*金額の単位未満は切り捨て。

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	野村マネー マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 97	千円 99

\*単位未満は切り捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2019年10月29日～2019年12月19日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2019年12月19日現在)

2019年12月19日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄		期首(前期末)	
		口数	金額
	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジアン・エクイティークラスA	口 6,477	千円 53,284
	合 計	口 6,477	千円 53,284



## ＜Aコース＞

## 親投資信託残高

銘柄	柄	期首(前期末)	
		口	数
野村マネー マザーファンド			千口 97

\*単位未満は切り捨て。

## ○投資信託財産の構成

(2019年12月19日現在)

項目	償還時	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 42,926	% 100.0
投資信託財産総額	42,926	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2019年12月19日現在)

項目	償還時
	円
(A) 資産	42,926,874
コール・ローン等	42,926,874
(B) 負債	1,609,089
未払解約金	1,530,903
未払信託報酬	77,913
未払利息	67
その他未払費用	206
(C) 純資産総額(A-B)	41,317,785
元本	52,217,696
償還差損金	△10,899,911
(D) 受益権総口数	52,217,696口
1万口当たり償還価額(C/D)	7,912円60銭

(注) 期首元本額は68,414,042円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は16,196,346円、1口当たり純資産額は0.791260円です。

## ○損益の状況

(2019年10月29日～2019年12月19日)

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	121,430
その他収益金	121,595
支払利息	△ 165
(B) 有価証券売買損益	394,271
売買益	413,798
売買損	△ 19,527
(C) 信託報酬等	△ 78,119
(D) 当期損益金(A+B+C)	437,582
(E) 前期繰越損益金	△10,935,729
(F) 追加信託差損益金	△ 401,764
(配当等相当額)	( 187,594)
(売買損益相当額)	(△ 589,358)
償還差損金(D+E+F)	△10,899,911

\*損益の状況の中で(C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## <Aコース>

### ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2015年6月29日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年12月19日		資産総額	42,926,874円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	1,609,089円
受益権口数	388,684,233口	52,217,696口	△336,466,537口	純資産総額	41,317,785円
元本額	388,684,233円	52,217,696円	△336,466,537円	受益権口数	52,217,696口
				1万口当たり償還金	7,912円60銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	468,101,686円	422,778,165円	9,032円	0円	0.0%
第2期	393,179,776	335,287,802	8,528	0	0.0
第3期	157,450,806	139,760,185	8,876	0	0.0
第4期	132,544,407	121,640,868	9,177	0	0.0
第5期	124,075,206	124,803,406	10,059	10	0.1
第6期	143,151,208	143,904,254	10,053	10	0.1
第7期	127,328,772	101,717,429	7,989	0	0.0
第8期	104,260,683	88,790,303	8,516	0	0.0
第9期	68,414,042	53,517,638	7,823	0	0.0

### ○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込み）	7,912円60銭
----------------	-----------

### ○お知らせ

該当事項はございません。

## &lt;Bコース&gt;

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年10月29日～2019年12月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 12	% 0.156	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 3 )	(0.042)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	( 8 )	(0.109)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 0 )	(0.005)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.001)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	12	0.158	
期中の平均基準価額は、7,648円です。			

\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

\* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

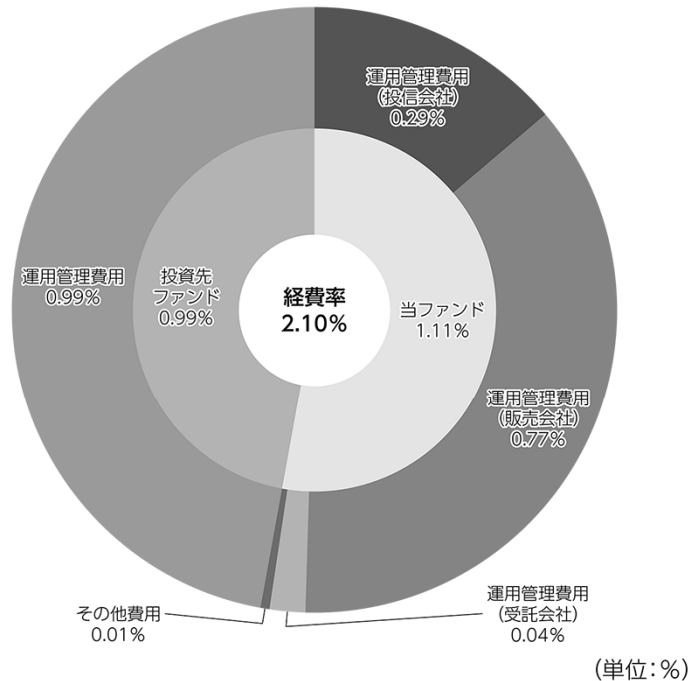
\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## &lt;Bコース&gt;

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.10%です。



経費率(①+②)	2.10
①当ファンドの費用の比率	1.11
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.99

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## &lt;Bコース&gt;

## ○売買及び取引の状況

(2019年10月29日～2019年12月19日)

## 投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジアン・エクイティークラスB	口 -	千円 -	口 63,713	千円 510,562

\*金額は受け渡し代金。

\*金額の単位未満は切り捨て。

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	野村マネー マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 979	千円 999

\*単位未満は切り捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2019年10月29日～2019年12月19日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2019年12月19日現在)

2019年12月19日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄		期首(前期末)	
		口数	金額
	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジアン・エクイティークラスB	口 63,713	千円 510,562
	合 計	口 63,713	千円 510,562

## &lt;Bコース&gt;

## 親投資信託残高

銘柄	柄	期首(前期末)	
		口	数
野村マネー マザーファンド			千口 979

\*単位未満は切り捨て。

## ○投資信託財産の構成

(2019年12月19日現在)

項目	償還時	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 455,119	% 100.0
投資信託財産総額	455,119	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2019年12月19日現在)

項目	償還時
(A) 資産	455,119,609 円
コール・ローン等	455,119,609
(B) 負債	5,902,837
未払解約金	5,138,998
未払信託報酬	760,862
未払利息	711
その他未払費用	2,266
(C) 純資産総額(A-B)	449,216,772
元本	583,886,908
償還差損金	△134,670,136
(D) 受益権総口数	583,886,908口
1万円当たり償還価額(C/D)	7,693円56銭

(注) 期首元本額は673,104,358円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は89,217,450円、1口当たり純資産額は0.769356円です。

## ○損益の状況

(2019年10月29日～2019年12月19日)

項目	当期
(A) 配当等収益	1,318,552
その他収益金	1,320,375
支払利息	△ 1,823
(B) 有価証券売買損益	5,024,557
売買益	5,151,646
売買損	△ 127,089
(C) 信託報酬等	△ 770,186
(D) 当期損益金(A+B+C)	5,572,923
(E) 前期繰越損益金	△132,282,129
(F) 追加信託差損益金	△ 7,960,930
(配当等相当額)	(△ 88)
(売買損益相当額)	(△ 7,960,842)
償還差損金(D+E+F)	△134,670,136

\*損益の状況の中で(C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;Bコース&gt;

## ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2015年6月29日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年12月19日		資産総額	455,119,609円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	5,902,837円
受益権口数	3,891,173,485口	583,886,908口	△3,307,286,577口	純資産総額	449,216,772円
元本額	3,891,173,485円	583,886,908円	△3,307,286,577円	受益権口数	583,886,908口
				1万口当たり償還金	7,693円56銭

## 毎計算期末の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	4,834,951,195円	4,325,279,651円	8,946円	0円	0%
第2期	4,034,264,862	3,126,552,322	7,750	0	0
第3期	3,376,061,153	2,590,620,714	7,674	0	0
第4期	2,795,492,829	2,396,672,319	8,573	0	0
第5期	2,136,980,298	2,064,942,332	9,663	0	0
第6期	1,658,909,172	1,560,775,313	9,408	0	0
第7期	1,244,720,747	965,885,749	7,760	0	0
第8期	1,161,047,138	972,104,217	8,373	0	0
第9期	673,104,358	511,432,279	7,598	0	0

## ○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込み）	7,693円56銭
----------------	-----------

## ○お知らせ

該当事項はございません。